

今、変革のとき！

笠岡市教育委員会 教育長

岡 田 達 也



折しも時代は、戦後最大規模の教育改革を迎えている。これまでの知識を蓄えるスタイルから、蓄えた知識をどう使いこなし、課題解決に結びつけるかを重視した教育へと変わる。時を同じくし、笠岡市では、平成二十三年度から取り組んできた保幼小中連携教育を小中一貫教育へと発展させるべく、十月に小中一貫教育に関する教育審議会を立ち上げた。まさに、大きな変革のときである。

かく言う私自身も、三十四年間の教員人生に別れを告げ、八月一日から新たな職に就くことを決断した。新たな未来を前にしたとき、戸惑いや不安から決断を躊躇したのは言うまでもない。決断を後押ししたのは、目の前にいた子どもたちや同僚、そして保護者や地域の方々の存在であった。みんなの輝く笑顔のために、まだまだ未熟な私だができることをやろうと思った。改革や変革を後ろ向きに、負担として捉えるのか。あるいは、前向きに、発展的に捉えるのか。その捉え方次第で、未来に向かう自らの姿勢は決まる。同時に、改革や変革の意義や必要性を強く意識すること

で、やらされ感や負担感は、意欲や使命感に変わる。

そして、未来を担う子どもたちのために「価値のある変化」を実現していくためには、教育に携わるすべての人々のつながりが欠かせない。人のつながりは、信頼関係によって深まり、信頼は対話と納得のもとで実現される。改革や変革に向かう今こそ、私たち教育に携わる者が、「価値ある変化」を実現すべく、強くつながり合い、不安や心配を大きな期待へと変えていかなければならない。目の前の変革に向かうために、意識や思考を変える。そうすることで行動が変わる。行動が変わることで、新しい世界が見えてくる。

私たちが使う「大変」という言葉は、「大きく変わる」とも読み取れる。大変なときは、自分が大きく変わることができるチャンスでもある。そのためにも、勇気ある一歩が、今求められている。私も、不安や心配を期待へと変えるべく、自らの一歩を踏み出したところである。